

2023年3月22日

モルディブ国の温室効果ガス排出量実質ゼロ目標への貢献に関する MOU を締結

日立造船株式会社は、このほど、モルディブ共和国で社会インフラ事業やエネルギー事業を手がける Male' Water & Sewerage Company, Pvt. Ltd. (以下、MWSC) および Renewable Energy Maldives Pvt. Ltd. (以下、REM) と、モルディブ共和国が掲げる 2030 年までの温室効果ガス排出量実質ゼロの目標に貢献するための枠組みを構築し、3社が協力して事業を行っていくことに関する基本合意文書 (Memorandum of Understanding、MOU) を締結しました。

MOU 締結式には、モルディブ国のシャウナ環境・気候変動・科学技術大臣や在モルディブ日本大使館の竹内みどり大使らが出席され、本 MOU の意義や可能性に期待を表明されました。



(前列左端から4人目：シャウナ大臣、前列右端から4人目：竹内みどり大使、前列左端から3人目：白木敏之当社常務取締役)

当社と MWSC、REM は、環境省が公募した「コ・イノベーションによる脱炭素技術創出・普及事業」において、「モルディブ国における太陽光発電と NAS 蓄電池を用いた脱炭素型海水淡水化システムの実証」を共同で提案して採択されています。

同実証事業では、太陽光発電の電力を利用し、逆浸透膜 (RO 膜) 法海水淡水化システムによる海水淡水化処理を行います。水処理量は 500 m³/日で、モルディブ国の約 2,500 人分の使用量に相当します。また、太陽光発電の余剰電力を NAS 蓄電池 (約 1,450kWh) に蓄えることで、日照量が少ない時には、蓄電池より供給される電力で海水淡水化するため、再生可能エネルギーを有効に利用することができます。

現在、同システムを実証試験サイト (グリファル島) で建設しており、来春の運転開始を目指しています。

モルディブ国は、インド洋に浮かぶ環礁や島々から成っていますが、近年では温暖化による海面上昇など、気候変動問題による深刻な被害を受けています。

当社は、廃棄物処理や水処理などの環境事業や、システム機械や電子制御機器、橋梁、水門、海洋構造物などの機械・インフラ事業、PtG（Powr to Gas）や風力発電などの脱炭素化事業を手がけております。また、グループ会社の株式会社ニチゾウテックでは水産業の分野に貢献できるスラリーアイス事業を展開しておりますが、当社はグループの総合力でモルディブ国の課題解決に貢献していきます。

(終)